

市長と語る会(令和4年8月1日)における意見及び市長の回答

※参加:地域包括支援センター、子ども食堂運営事業者及びわがまち支えあい協議会

No	意見	担当	状況	理由等	参考(語る会当日の市長の回答)
1	地域包括支援センターを運営しているが、コロナ禍で、人と人とのコミュニケーションが難しくなっている。街角にベンチを置くなどして、地域の人同士が会う機会を増やすことが、地域のつながりに通じ、日頃の相談活動の延長上にあると思う。	高齢者支援課	進行中	高齢者が安心して地域で生活するためには、地域の目や気づきが大変重要であることから、高齢者の社会参加の促進や外出機会の創出などを通じて、地域の個人や団体同士のつながりづくりを進めてまいります。	高齢者に何とかが外に出ていただきたいということは同じように思います。 孤立化が一番よくないと認識していますので、公園や文化センターなどで、福祉コーディネーターの皆さんのお力を借りて、憩いの場であったり、情報交換の場となるように充実していかなければいけないと改めて思いました。
2	コロナ禍で子ども食堂を休止し、フードパントリーを行ってきたが、本来の子ども食堂の活動に戻ると難しくなるので、わがまち支えあい協議会でフードドライブを充実させる方策があるとよい。	地域福祉推進課	進行中	地域の生活課題を解決していくみである、わがまち支えあい協議会の活動を地域福祉コーディネーターが支援しています。地域課題の解決に向けた様々な活動団体と連携し、地域福祉のさらなる拡充へ向けて取り組んでおります。	皆さんの活動を本当に熱心にやっていただいて、大変ありがたしいと思います。 いろいろなサークル、活動が、5、6年ぐらい前から、皆さんのおかげで盛んに行っていたようになってきましたので、コロナがある程度収束が見えてきた段階で、地域の中でどうしていったらいいかということ、住み分けをする必要はないと思うのですが、皆さんで意見交換できる場というのが必要だと思います。
3	地域包括支援センターで事業を行っているが、コロナ禍で参加する人と参加しない人が二極化している。参加しない人に対して、どのようにアプローチしたらよいか課題に感じている。	高齢者支援課	実施予定	様々な事業に参加しない要因の一つに情報が伝わっていないことがあると考えられるため、高齢者本人だけでなく、その家族や知人を通じた効果的な情報の伝達方法についても検討していく必要があるものと考えています。	二極化していることを現実として受け止めて、外にお出にならない高齢の方をどのように見守っていくか、どのようにアプローチしていくか、これを大きな課題として皆さんと共通認識をもち、今後考えていくことが大事だと思います。
4	地域包括支援センターの取組として、学校で認知症サポーター養成講座を行った際、子どもたちから、困った人を助けたい等の意見があった。住みたい地域は自分達で作っていくものであり、地域の支え合いのためには、子どもやその親への意識付けが重要であると感じている。	高齢者支援課	進行中	認知症の方や、支援が必要な高齢者も地域で安心して暮らせるためには、子どもも含めた多様な方々の支えが重要であるため、高齢者以外の世代への啓発活動も引き続き行ってまいります。	子どもたちにしっかりといろいろな機会に働きかけをしていただいているので、子どもたちが素直に助けたいと思ってきているのだらうと思います。ですから子どもを通して、保護者の方にも地域の福祉の支え合えることの大切さというのを伝えていけるようにしたいと思います。
5	子ども食堂を行っていますが、常連の方がしばらくいらっしやらないと何かあったのかなと感じるところがあって、それは心のつながりなのかなと思っている。	子育て応援課	実施済み	市のホームページで、市内の子ども食堂実施団体の活動概要を掲載し、紹介しております。	今後もいろいろな環境の変化で来られない方がいらっしやったときには、情報共有していけるようにしなければいけないということを改めて思いました。
6	地域包括支援センターで事業を行っているが、コロナ禍で参加できなくなった方へのアプローチが課題となっている。例えば、ベンチを置けることや、ごみ出しの際の立ち話ができるような憩いの場があればよいと思う。また、移動販売車が地域に来ることも、顔なじみができると思う。	高齢者支援課	進行中	新型コロナウイルスの感染拡大により高齢者の外出控えが進んだため、社会参加の促進や外出機会の創出などを通じて、地域の個人や団体同士のつながりづくりを進めてまいります。	時代の変化で通信販売が増えてきましたが、見守りや支え合いにおいては、人とのつながりができることが必要だというのは、重要な視点だと思います。

市長と語る会(令和4年8月2日)における意見及び市長の回答

※参加:地域包括支援センター、子ども食堂運営事業者及びわがまち支えあい協議会

No	意見	担当	状況	理由等	参考(語る会当日の市長の回答)
1	地域包括支援センターとして活動する中で、顔が見える関係を作ることが大事だと考えている。コロナ禍で、地域包括支援センターの広報誌の配布を地域の方に直接お願いをすることができなくなり残念だが、地道に続けていきたい。	高齢者支援課	進行中	高齢者への支援を行っていくためには、地域の個人や団体との関係性づくりが重要であると考えておりますので、市といたしましても地域包括支援センターの活動をサポートしていきます。	実際に顔を合わせるチャンスがあって、相手方もそれを望んでいる方が多いのではないかと思います。活動を続けていただいていることで孤独感を感じている方につながるチャンスとなっており、ありがたいと感じています。
2	子ども食堂の活動を通じ、子どもの貧困が課題であると感じるようになった。その中でも子どもの学習支援の必要性を感じ、子ども食堂と並行して、1年程前から学習支援として寺子屋を開いている。	生活福祉課	進行中	市では生活困窮世帯の子どもの学習を支援し、高校進学及び就学を支援することにより貧困の連鎖を防止しています。具体的には市内5箇所です学習室を開催し、一人ひとりの学力に応じた学習の機会を提供し、基礎学力を身につけ、自立して生きる力を育むよう支援しています。大学生や大人の学習支援員が学習をサポートします。利用料は無料です。	親から学習の手ほどきを受けるということがないというのも実態として広がっていることが懸念され、コロナが拍車をかけたような状態になってしまっていると思われまます。皆さんで深く関わっていただいで、学習支援までの道を考えていただいているということは、大変ありがたいと思います。
3	地域包括支援センターの活動をご存じない方に対し、地域包括支援センターが見守りの拠点になっていることを、市民に周知してほしい。	地域福祉推進課 高齢者支援課	進行中	高齢者が安心して地域で生活をしていくためには、地域の方が異変を察知した際に地域包括支援センターへご連絡いただき、早期に関わりを始められることが重要です。そのため、引き続き地域包括支援センターの認知度の向上に努めてまいります。	地域包括支援センター、わがまち支えあい協議会の皆さんの活動、それから子ども食堂などの提供を頂いている皆さんの活動が横断的につながるといことと、それから、それぞれを市の広報活動を通じて、市民の皆さんに知って理解していただき、参加していただくためのアクションをさらに起こしていかなければいけないと感じます。
4	フードパントリーでつながっている家庭において、コロナで親がホテル療養に行き、子どもだけが残された家庭の支援の際、子ども家庭支援センターに相談したところ、発熱のある家には行けないとのことだった。専門機関も一緒に入って、このような家庭の支援を考えていただきたいと思う。	子ども家庭支援課	実施済	他の相談者への感染等も考慮し、保健所にも対応を相談したうえで相談員の訪問はいたしませんでしたが、母へ連絡を入れて子どもの状況確認と見守り支援事業で弁当を届けております。今後も感染症対策を確実にしながら支援を実施してまいります。	専門機関は、組織として支援するということが責務だと思います。適切な対応をするよう、頂いたお話を公的な機関の中で共有してまいります。
5	子ども食堂の活動を通じ、市に関わりたがらないが、実は困っている方が多くいると感じる。全体としての見守り活動を充実させるために、私どもみみたいなボランティアで動いているところと、市との横のつながりをもう少し強化をして、情報が共有できることが大事だと思う。	子育て応援課 高齢者支援課	進行中	困りごとのある方へ適切な支援を行うためには、市や地域包括支援センターだけではなく、地域の個人や団体との連携が必要ですので、個人情報保護法の範囲内で必要な情報を共有しながら、連携の強化を進めていきたいと考えています。	個人情報の保護にも留意したうえで、情報を共有して必要な支援をするための手段を、みんなで継続して考えていくため場が必要ですので、引き続きよろしくお願ひいたします。
6	わがまち支えあい協議会の活動を通じ、地域において支援が必要な方の情報をどのようにキャッチするか課題であると感じている。福祉まつりでのPRも考えている。	地域福祉推進課	進行中	市民に活動を知ってもらう機会とするため、福祉まつりへ多くの方が来場されるよう社会福祉協議会とともに福祉まつりを開催してまいります。	支援が必要な方をキャッチするためにも、皆様の連携が大事であると感じています。また、福祉まつりは大事なつながりを作るイベントになると思います。
7	地域包括支援センターの活動を通じ、地域のつながりがなければ、地域課題は解決しないと感じている。地域の企業も含め地域の様々な方と協力し、地域を良くする活動をしていきたい。	高齢者支援課	進行中	高齢者の見守り等で地域の個人や団体との連携づくりを行っているところですが、地域の課題を解決するためには、地域の多様な主体がお互いの特徴を理解し、それぞれの強みを生かして連携していくことが重要ですので、顔の見える関係性づくりをさらに進めていきたいと考えています。	市では、事業者と連携するための協定なども進めており、地域のことを一緒に考える主体が増えてきています。引き続きこれらの取組を進めていきたいと思っています。

市長と語る会(令和4年8月3日)における意見及び市長の回答

※参加:見守り協定締結団体

No	意見	担当	状況	理由等	参考(語る会当日の市長の回答)
1	業務で見守り活動を行っているが、業務の性質上、集合住宅にお住まいの方の見守りが難しいことが課題であると感じている。	高齢者支援課	進行中	集合住宅にお住まいの方の見守りも十分に行っていくよう、地域包括支援センターと管理組合や自治会との関係性づくりをさらに進めていきたいと考えています。	本当に生活に密着した視点で日頃活動していただいて、見守りもしていただいている。さらに私のほうからPRさせていただくと、車両にAEDも積んでいただいているので、地域でもし心臓など患われた方がいらっしゃったときにそれを使って蘇生していただくということにもご協力を頂いております。ご自身の業務だけでなく、地域の見守りにもご協力いただき、ありがとうございます。
2	今後、地域包括ケアが重要になるため、医師会などと協調しながら包括ケアと見守りネットワークを同時に考えていくことが合同でできればよいと思う。	高齢者支援課	進行中	地域包括ケアを強化するには、医師など医療従事者との連携も非常に重要ですので、その核となっている医師会と協働しながら、体制づくりを進めてまいりたいと考えています。	2025年になると団塊世代の皆さんが全員後期高齢者になりますので、医師や医薬品関係者を含め、地域のきずなが重要だと思っています。
3	地域の見守り活動において、市民の方に届けたい情報があれば、協力して、営業中にチラシの投函をすることができ。また、年1回ほど見守り活動について市の方針を通知していただければ、わが社の活動を進めやすい。	高齢者支援課	進行中	引き続き連携して高齢者が見守りができるよう、定期的な情報交換等をさせていただきたいと考えています。	時代の変化を企業の皆さんも捉えて、地域に入って社会貢献をしていくという連携が取れるようになってきたのですが、一方通行だったりお任せしたきりだったり、意思を十分には伝えきれていないこともあるかと思います。貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。
4	配送活動における熱中症等の見守り事例について、事業所において情報の共有をしている。異変を感じた場合は地域包括支援センターに連絡するようにしている。	高齢者支援課	進行中	地域包括支援センターに情報を寄せていただけることで助けられる命もありますので、引き続き連携をさせていただきたいと考えています。	高齢の方ほどエアコンはあまり好まないし、暑い中で1人で暮らしていらっしゃる方の家の窓が開いていると対処に迷うことがあります。皆さんも対処に迷われることが多くあるのではないかと思います。ご対応いただきありがとうございます。
5	配送活動において異変を感じた場合は地域包括支援センターと連携し、安否確認をするようにしている。最近ではコロナ禍であり、対面でのお渡しは難しく、お宅の状況を確認することができない。また、事業者間において地域の情報共有をしているが、地域包括支援センターも交えた事例共有の機会があるとよい。	高齢者支援課	進行中	引き続き連携して高齢者が見守りができるよう、定期的な情報交換等をさせていただきたいと考えています。	横の連携は非常に重要であると考えています。また、事業者の皆様で情報を共有していただき、ありがとうございます。
6	特に男性の高齢者は外に出たがらない人が多いので、学校に集まる機会を設けるなど、地域につながる場を設けることで、孤立化を防ぐことができるのではないかと。	高齢者支援課	進行中	高齢者の孤立化を予防するには、外出や他者との交流の機会を創出することが有効ですので、引き続き地域のサロン活動などへの支援を行うとともに、個々のニーズに合った多様な活動の場を設けられるように検討していきます。	文化センターが公民館と児童館と高齢者福祉館の3つの要素を持った複合施設になっており、11のエリアに分けたそれぞれの地域の活動の拠点としているような施策を講じています。つながっておくこととしっかりと見守っておくことは大事なので、参考にさせていただきます。
7	見守りには近所の声掛けが重要であり、回覧板も大切だと思う。また、市役所が開庁していないときの連絡先の周知や、どのような場合に連絡すべきかのガイドラインがあるとわかりやすい。	高齢者支援課	実施済	情報交換会を行い、その中で異変があると感じたら連絡をしていただきたいことや、お互いの連絡先を共有させていただきました。今後も定期的に情報交換の機会を設け、より良い連携のあり方を協議させていただきたいと考えています。	回覧板については、ウィズコロナの中でいかに元に戻していくかということをしては考えていきたい。 【高齢者支援課より】 認知症のガイドラインを送付させていただいたので、共有してもらえればありがたいです。また、地域包括支援センターは24時間体制で連絡が可能となっており、夜間などの連絡先は、バックヤード向けのちらしを作っているの周知してもらえればありがたいです。
8	業務で地域の方が交流し、つながりを持てる場を設けている。その中で、市の歴史など府中の良さを伝えている。	高齢者支援課	実施予定	高齢者福祉以外の分野でも連携が進められるよう、関係課への情報提供や紹介などをさせていただきたいと考えています。	市をPRしていただき、ありがとうございます。どこかで関わればその先いろいろなつながりの広さ、つながりの幅が出てくるのではないかと期待しています。皆さんから伝えていただくことで、まちへの愛着が生まれれば大変ありがたいです。
9	当社が持つ家庭から排出されるごみの情報などを福祉部門と情報共有することで、見守りに役立つのではないかと。	高齢者支援課	実施予定	ごみの排出の有無は、生活の状況を把握するための貴重な情報となります。高齢者が見守りをさらに充実させるため、情報交換をさせていただきながら、新しい連携の形も協議させていただきたいと考えています。	これまでいろいろなつながりの中で対応していますが、完璧になっているかといったらそうではなくて、問題を解決することができたこともあるしできなかったこともあると思います。皆さんから頂いたご意見などを幅広くいろいろな方と共有していかなければいけないと思います。

市長と語る会(令和4年8月5日)における意見及び市長の回答

※参加:地域包括支援センター、子ども食堂運営事業者及びわがまち支えあい協議会

No	意見	担当	状況	理由等	参考(語る会当日の市長の回答)
1	地域のつながりが希薄となっている中で、近所の人々が助け合える関係を作ることが大事だと考えている。また、地域包括支援センター、民生委員などと要支援者の情報を共有できるとよい。	高齢者支援課	進行中	高齢者が安心して生活できる地域をつくるためには、市や地域包括支援センターだけではなく、地域の個人や団体との連携が必要ですので、個人情報保護法の範囲内で必要な情報を共有しながら、連携の強化を進めていきたいと考えています。	地域のつながりの希薄化については課題であると認識しており、その対応としてわがまち支えあい協議会の皆さんなどにご協力いただいております。要支援者の情報については、弾力的な取扱いについてを検討を進めていきます。
2	いろいろな方が見守り活動を行っているが、連携のため、文化センターなど地域の情報を集約する場所が必要だと思う。	子ども家庭支援課	進行中	子育て世代包括支援センター「みらい」では、妊娠から18歳までの子育て支援に関する情報を集約し、妊娠届、乳幼児健診、離乳食教室、歯磨き教室、子育て相談などで情報提供しております。また、地域福祉コーディネーターと密に連絡を取りながら、文化センターとも連携を行ってまいります。	情報を集約しないと、よいタイミングに必要なサービスを提供できませんが、子育て支援に関しては、新たに開設した子育て世代包括支援センター「みらい」が重要な役割を果たすと思います。また、市内の11か所にある文化センターも重要な役割を果たしますので、皆さんが横につながり、見守りを担っていただくことを期待します。
3	地域包括支援センターにおいて、学校向けの認知症サポーター講座をオンラインで行った。ZOOMなどのデジタルツールを利用するなど、直接会う形以外にも気づきのアンテナを育む方法を模索する必要がある。	高齢者支援課	進行中	コロナ禍において、ZOOMでの講座開催のような従来とは異なる発想の手法が生まれた一方で、従来の手法の良い点も明らかになりました。今後再び感染症が拡大した場合にも影響を最小限にとどめ、目標としている効果があげられるよう、それぞれの手法のメリット、デメリットを整理しながら、多様なやり方を検討していく必要があるものと考えています。	高齢者の方はデジタルツールになじみのない方もいますので、どう乗り越えていったらよいかという点も、この会の中でお話しただけだとありがたいです。「気付きのアンテナを育む」という素晴らしい言葉をいただきまして、気づきのアンテナをみんなが持つようになることが第一歩で、いかにそれを皆さんに伝えていくかということが大事なことだと思います。
4	地域包括支援センターとして地域のイベントに参加した際、センターを利用する高齢者の方にボランティアとしてご協力いただいた。まだまだ高齢者の方でもできる力があるので、こういうことをやりたいと言う提案があったら、一緒に協力してやっていきたい。	高齢者支援課	進行中	高齢者自身ができることをやっていただくことは、心身の状態の維持や生きがいづくりに繋がりますので、今後も高齢者が活躍できる多様な場を設けられるよう検討していきます。	高齢者の方への声掛けいただき、活躍していただくことは、介護予防などの観点からも重要なことだと思います。
5	二極化という話もあるが、なかなか出てこない方も、つながりを求めているのではないかと感じている。地域包括支援センターでも皆さんとつながりながら、見守りの種まきをを少しでも根が張るように協力して進めていきたい。	高齢者支援課	進行中	高齢者への支援を行っていくためには、地域の個人や団体との関係性づくりが重要と考えておりますので、市といたしましても地域包括支援センターの活動をサポートしていきます。	相手が高齢者でも、あるいは子どもたちでも、見守りの種まきが重要だと思います。根が張るといってお言葉も名言だと思います。
6	困った人が一番相談しやすいのが地域福祉コーディネーターだと思うので、文化センターに常駐していただくことで、情報の集約がしやすいと思う。また、フードドライブとフードパントリーのためのワークスペースが文化センター内にあるとよい。	地域福祉推進課	進行中	各文化センターで開催している困りごと相談会について、地域福祉コーディネーターを段階的に増員し、開催日の拡充を進めています。	地域福祉コーディネーターが常駐できるような場所があると一番いいと思います。それに向けて取り組んでまいります。地域福祉コーディネーターを中心に情報の共有や、ある程度の組織だった活動ができるようになることを目指していますが、一足飛びにはいかないので、今はいつどここの文化センターにいるかという情報提供をしています。フードドライブ等の場所については、いろいろな制約があるので難しい面もありますが、検討を指示します。 【社会福祉協議会より】 地域福祉コーディネーターが、いつ文化センターに行ってもいる、という日が一日でも早く来るように、進めているところがございますので、今しばらくお待ちいただければ幸いです。
7	地域活動を行うには、活動をしたいという人を増やす必要がある。地域参加を促すため、わがまち支えあい協議会が地域にあることを発信してほしい。	高齢者支援課	実施予定	高齢者にとってもわがまち支えあい協議会は重要な地域の資源ですので、高齢者支援課といたしましても、地域包括支援センターの活動などを通じて協議会の周知にご協力できたらと考えています。	広報、ホームページで案内していますが、繰り返し工夫をして広報活動しないといけないと思いました。また、文化センターまつりなどの際、コーナーを設けるなど周知の機会を増やしていきたいと思っています。
8	わがまち支えあい協議会や子ども食堂の活動を続ける中で、皆さんが楽しそうに参加したり、困りごとを抱えた方の課題が解決していくことを嬉しく感じている。今はコロナ禍だが、また多くの仲間とともに活動をできるようにしたいと考えている。	高齢者支援課	進行中	支える側が喜びを感じることで活動が発展し、それにより支えられる側の支援が充実するという好循環が生まれると考えますので、高齢者支援課といたしましてもニーズのマッチングの仕組みの充実などを検討していきます。	活動を熱心に行っている皆さんには心から感謝しています。皆さんが求めているのは、楽しくみんなと新しいつながりを作ることなのだろうと思います。